

NO.1

メタセコイア

(スギ科)

「アケボノスギ」とも呼ばれるメタセコイアは、コテージの周辺にたくさん植えられています。針葉樹の多くは、冬に落葉しませんが、この木はカラマツなどと同じく落葉する針葉樹です。樹形が円錐形で美しく、よく公園などに植えられます。

メタセコイアは、「生きた化石」と呼ばれています。これは、メタセコイアのなかまが世界の多くの地域で化石として発見されていたからです。1945年（昭和20年）までは、地球上に現存するものは知られていませんでした。ところが、中国四川省の揚子江支流の奥山で1945年に中国の林務官によって発見され、世界中に大きなニュースとして伝えられました。

発見から4年後の1949年にアメリカのチェネー博士から昭和天皇に献上されたのが日本での初お目見えといわれています。その後、珍しさや樹形の美しさ、成長の早さなど、修景樹木として非常に優れていることから全国各地に植えられ、おなじみの木となりました。この木は挿し木でよくつくので、実生のほか挿し木で増やされます。成長が極めて早く、1年で年輪幅が1～1.5mも伸びることがあり、高いものは35mにも達します。

ふるさと森林公園では、コテージ周辺の他湿性植物コーナーにも植えられています。春の芽立ちや紅葉もきれいですので、四季折々に観察してみましよう。



▲ メタセコイアの葉：冬には落葉します



▲ メタセコイアの枝：しなやかな感じの枝です



▲ コテージ周辺に植栽されているメタセコイア